

急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 綴文

いろいろ考案があるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 639

2022年12月 **冬刊**

も・く・じ

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

今年の流行語大賞は「村神様」

そして今年の漢字は……

- あの山の向こうに **⑬** 2
- 韓国の慰安婦問題考察 4
- 「戦争と罪責」 6
- 米寿祝い感謝 10
- 退会のお願ひ 11
- お便りから 12
- 山仕事(11月、大平) 23
- 「負け組」包む国際秩序を 26

(お元気で
よい年を
お迎えください)



この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、
年会費 ¥,000円を

郵便局で 00100-2-20630
「雑報友の会」
へ申し込んで下さい。

月 日現在の
会員数 212名

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、ほすくま仲間たち。

山仕事(11月、大平)

11月23日(水・休)、この日は久しぶりに朝からの雨。東京駅で原田さんと、熱海駅で山崎さん、掛川駅で伊藤康江さんと合流。天浜線教地駅で鈴木正士、久米さんに迎えらる。

揃って深澤明男・富士代さんの豊田農場へ。明日からの売り出し準備に忙しい二人だが、今回も宮川早生を沢山いただく。ふだんは二人でやっているが、収穫期の今はパートの女性に手伝ってもらい、熟し具合をみて摘みミカンを、さらに二人が選果する。いわば粒よりのミカンという訳だ。

その品質に惹かれて常連客が多い。この秋は品薄で、いつも2箱注文する山ちゃんだが「1箱にして」と言われている。

その後、買物へ。ぼくはただついでまわるだけだが、



けっこう楽しい。総い

てほんだのスーパーより高いようだ。

正士さんに着いてもやることがない。そこで二手に別れることにした。

康江、久米さんと英ちゃん、シルロードミュージアムへ。残る3人は山福へ。次に買う予定のXリリ払い機の下見のつもりだったが、生憎のお休み。やむなく、シル

ルロードミュージアムへ。中に入らなかつたが、築250年という立派なおうちだ。校長先生をしいた主があつめた美術品などが展示されているようだ。家の前の駐車場との間の橋が、先日の豪雨で流されていた。

9月、飯田市上久堅でお世話になった加藤いづみさんが参加。夕食は、

刺し身(しめサバ、イナダ)、生サケのムニエル、人参サラダ、ヤコン(久米さん)のきんぴら、ナメコと大根のし、焼き油揚げ、シラス干し、カブの漬物、生麩(加藤さん)に、正士さんの手打ちそば(群馬産の常陸秋そば)を久米さんのだしのかえしで。この夜、ぼくは母屋を倉庫に。



みさくぼ

11月24日(木)、晴。この日は水窪から守屋、中谷、竹中さん、それに若林さんが参加。

朝、山ちゃんが久しぶりにやろうというのでバラバラ体操。

朝一番の作業はスミさんし加わり、浅田さんの田んぼ跡の草刈り①から。ついでに、干し柿を作っている西田



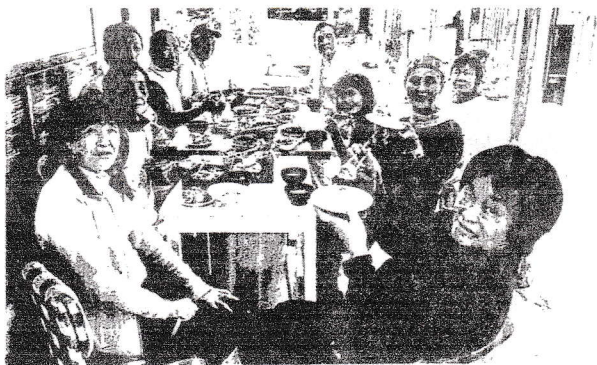
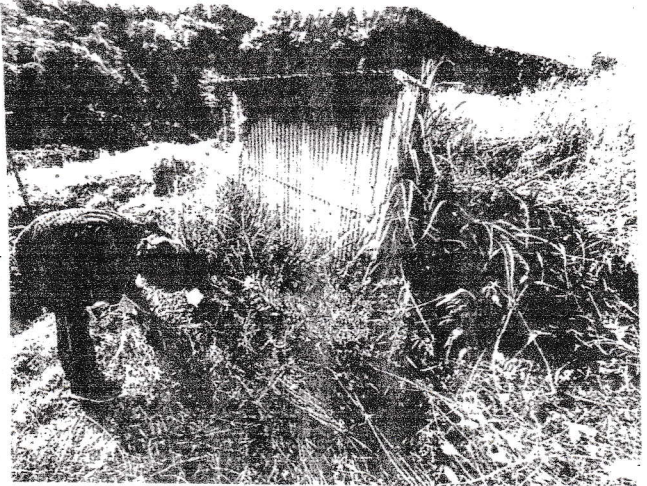
さんの柿の木の下の刈ったら、「立石(干し柿用の洗柿)」を約コほど貰っちゃった。



その間に水窪の昔乙女の名が到着。坂上利子さんの柿園②の電柵にからみついた草やつるを手鎌でとり払ってもらった。これで匂いねなく草刈りができる。そのあと、ほくらが行って家のま

わりを合めた草刈り。

(昼食) 水窪からもたらされたご馳走は、お稲荷さん、シタケごはん、サツマイモを裏ごして生クリームを加え春巻き風に揚げたもの、大根と豚肉の煮物、ジャガタ(水窪特産小粒ジャガイロ)の煮ころかし、キウイのみそ漬け(酒粕に漬けた後、みそで二度漬け)、系こんにゃくのクレープ和え、塩イカとキクラゲの和之物、煮豆(大豆、人参、シタケ)、ゆべし(中谷さん)にすまし汁。



午後はヨザ③の草刈り。正士さんは昨日休みだった山福へ行き、女性も扱いはいよう軽量の刈り払い機をセリアで購入。

水窪の3人と加藤さんは、洗柿の皮むき。夕方、水窪の3人が帰ったあとも、黙々



と皮むきを続ける加藤さんに、誰いともなくついたアダ名が「カキ大将」。

むいた柿はタコ糸で2コを振り分けに吊すようにし、熱湯にチャポン、3秒、チャポン、3秒



…チャポンと3回つけて消毒し、竿に吊るす。草刈りに終えたばかりの方も、正士さんの命ずるまま、チャポン、チャポン、チャポン、チャポン。

夕方、大きなシタケを持って見えた青山忠義さんが加わり、夕食。

(ゆ) 蒸し豚、カブと生ハムのサラダ、根菜の煮物、炭火焼きシタケ、イナダの漬物とタコの刺し身におそば。

久しぶりに参加の青山さん、女性に囲まれて盛り上がっていたよ。



11月25日(金)、晴。ヨザ③の草刈り続き。久米さんも新品のセノアで参加。



お母さんはデイサービスへ。昼にカレーライス、キウイ、カキをいただき、正士、久米、加藤さんに見送られ帰宅。

下は、加藤さんが遠州(静岡)在住の長野出身者でつくる「遠州信濃会」の会報「しなの倶楽部」に「猫の手クラブ体験談」を寄稿したものを、小さくしてご紹介いたします。

遠州のおもむろ人 vol.3

すばらしい私の故郷 磐田市大平を 楽しくしっかりと 守っていきたく
鈴木正士さん 磐田市大平 (73)
(文 / 鈴木正士さん HP より)



豊岡村の役場を退職、「趣味の農林業」を営んでいます。栽培作物はお茶に水稲、それにお蕎麦と山菜を少々。農薬や化学肥料を使わず自然に育て安全で安心して丸ごと食べられる。そんな農林業を目指しています。私の住む磐田市大平地区は、磐田市の最北端の山の中、少子高齢化が進み、人口も減っています。逆に荒地が増え、あと10年もしたらどうなるのかとても心配です。我家の山や田畑も例外ではありません。だれも薄暗い山など怖気がして行きたくありません。また一人での山仕事は危険です。

そんな危なっかしい農林業経営を「猫の手クラブ」の皆さんが応援に来てくださり支えてくれています。助っ人の皆様に来てくださると自然と山へ行けるようになります。不思議とみんながやればいやな作業が面白く、山や畑が綺麗になるとうれし、程よい運動ができて気持ちのいい汗をかき、食事やビールがたまたまおいし。交流会も楽しく元気が出ます。

「猫の手クラブ」は、農水省OBの鈴木厚正さんの提唱する助っ人のグループです。私は「猫の手クラブ」の皆さんに支えられ、我が家の農林業と地域の宝物を守ることをライフワークに一生懸命頑張っています。過疎化や少子高齢化が進む中山間地域をこれからどうやって守っていくのか?このような活動が少しずつ広がっていくことを望んでやみません。

猫の手クラブのモットー
「猫の手も借りたい人に、
猫の手よりもましなお手伝い」

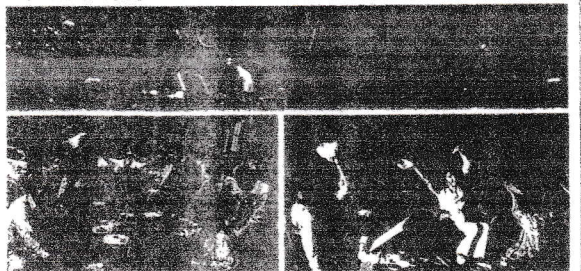
猫の手クラブの山仕事
「猫の手も借りたい人に、猫の手よりもましなお手伝い」をモットーの猫の手クラブ。毎月、磐田市大平の山で山仕事を行っています。参加費は、正士さんの山の手入れでは、正士さんの「せほ」もたくさん支給して下さる作業をしています。地域の高齢者に近い、草刈りや、静岡、静岡の山仕事もしています。猫の手クラブには、会費も金銭もありません。ユビヨロで正士さんの「せほ」が、参考になるので、交通費負担、会費5000円としています。作業の案内や報告は、『猫の手クラブ』でお知らせいたします。 鈴木正士

まだ暑い8月末の3日間、かねてより噂に聞いておりました「猫の手クラブ」にご縁を頂いて参加する機会となりました。

磐田の大平、鈴木氏のすばらしい和風建築お屋敷にメンバーが集まりました。「ここはね、すごい人たちばかりなんです。私は、私達の里山をみがきたいんですね。」と鈴木氏が言われた通り、農水省の元役員×2、会社役員(埼玉から)、84歳の大学教授夫人(東京から)、消費者問題調査会社の女性、森町からはマドンナ参加など、男性4人、女性4人の強者どもでした。

今回の任務は、茶畑の草取りと、施肥、土おこしでした。我々女性陣は、ごはんの支度が主でして、10畳もあろうかという台所で手際良く仕事を進めました。皆様、前向き思考、仲間を大切になさる素敵な方ばかりでした。夕食時には議論がヒートアップして様々な意見が生じましたが、違いを楽しむ余裕が感じられて、楽しい時間でした。クラブはもう30年やっているそうですが、高齢化が問題のようです。

(写真は私の実家の山林の手入れに来て下さった時の様子です。)



メンバーの皆様、素敵な方ばかり。楽しい仕事をなさり仲よし、楽しんで、笑いが絶えない3日間でした。困っていた家周りを見違えるようにして下さり感謝しかありません。

新会員さん紹介

小澤広樹さん(駒ヶ根市出身)
中谷厚志さん(下伊那郡大鹿村出身)

事務局からのお知らせ

『しなの倶楽部』の原稿を随時受け付けています。
遠州信濃会事務局 〒438-0002 磐田市大久保734番地94号
岩田厚 電話 0538-38-2302 ファックス 0538-38-2302

多くの方々の「お楽しみ交流会」参加と年会費納入をお願いします。
年会費振込先 [郵便振替] 年会費 1,000円
口座記号番号 00830-8-126029 加入者名 遠州信濃会